

氏 名	すずき あるの <b>鈴木 在乃</b>
学位(専攻分野)	博 士 ( 学 術 )
学 位 記 番 号	博 甲 第 6 6 6 号
学位授与の日付	平成 25 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研 究 科 ・ 専 攻	工芸科学研究科 造形科学専攻
学 位 論 文 題 目	<b>居住空間の異文化理解：留学生の生活および学習環境に関する研究</b>
審 査 委 員	(主査)教授 鈴木克彦 教授 森田孝夫 教授 中川 理

## 論文内容の要旨

本論文は、教育の国際化を背景として、宿舍計画および建築教育という二面から、文化の多様性に起因する考え方や生活習慣の相違を受容しうる教育現場の国際化の方法論を探ろうとしたものである。

序論では、研究の目的と方法及び関連する既往の研究と調査対象について述べている。

第 1 章では、全国の留学生宿舍の発展の経緯およびその問題点を明らかにするとともに、文献資料調査等にもとづいて選出した全国32の国際宿舍の設置理念と運営実態の調査結果を踏まえた上で留学生の住宅環境について論じている。そして、日本への留学生は共同生活をつうじて日本の生活習慣や文化を受容する傾向があること、日本人を対象にしたアンケート調査結果から混住型の国際宿舍を提供していくことが留学生と日本人学生の双方にとって利益のあることであること等を明らかにしている。

第 2 章では、留学生の生活実態と住宅嗜好について、200 名の留学生に対して質問紙調査を行った結果を分析し、過去の生活環境と現在の住宅嗜好の間には一定の相関関係があることや出身国による文化的な差が縮まっていること等の生活実態の特徴を明らかにしている。

第 3 章では、多文化共生および留学生受入の先進国事例として、米国カリフォルニア大学バークレー校の国際宿舍の事例研究を行っている。ここでは特に、再開発前後の住宅計画の違いに着目し、何が多様性を許容しコミュニティを活発化するのかについて考察しており、再開発前のシンプルで生活自由性を備えた住宅プランにおいて文化性を反映した多様な生活習慣が展開されていたことを解明している。また、近年留学生受入れを加速しているヨーロッパやアジア諸国の国際学生宿舍動向についても、いくつかの事例を紹介し、日本および米国において観察された動向の変化を論じている。

第 4 章では、大学の建築教育における留学生の学習環境に目を転じ、筆者が行っていた伝統建築・庭園を題材とした教育実践の方法論について論じている。その中で、米国及び日本で学ぶ学生の演習成果物の定性分析により、学生の出身地文化の相違や予備知識の有無と日本の伝統的デザインの理解傾向との関連を明らかにしている。

第 5 章では、前章の成果を受け、建築リソースとしての文化財古民家の保存活用の可能性と問

題点を考察した上で、一般市民を対象としたアンケート調査の結果を踏まえつつ、伝統建築保存活用のあるべき方向性と建築教育の国際化の関係について論じている。その中で、伝統建築の維持保存と環境教育を相互作用的に発展させていく可能性を見出している。

以上の成果をふまえ、異文化空間の正しい理解のために伝統的文化財やヴァナキュラー建築に着目し、貴重な建築リソースとして保存活用することが教育現場の真の国際化であることを提言し、その保存活用のあり方を述べている。

## 論文審査の結果の要旨

本論文の5つの章は、学術論文誌に審査を経て掲載、ないしは掲載が決定している4編の論文を中心に構成されている。

教育の国際化にともない、高等教育機関においては、その教育現場と生活環境の双方において、文化の多様性に起因する考え方や生活習慣の相違を受け入れる必要が生じてきている。本論文は、留学生の宿舍計画および建築教育という二面から、教育現場の国際化の方法論を探ろうとするものである。その根拠を導き出すために、全国32の国際宿舍の設置理念と運営実態の調査を実施するとともに、留学生の生活実態と住宅嗜好について質問紙調査等によって明らかにしている。これらの研究から、日本への留学生は共同生活をつうじて日本の生活習慣や文化を受容する傾向があること、過去の生活習慣と住宅嗜好には相関があること、住要求にはQOLを重視する傾向のあること等、今後の宿舍計画に重要な示唆を与える知見が見出されている。また、多文化共生および留学生受入の先進国事例として、米国カリフォルニア大学バークレー校の国際宿舍の再開発前後の住宅計画の違いに着目した事例研究を行っており、本研究ならではの独創的で有意義な研究成果が導かれている。特に、シンプルで生活自由性を備えた住宅プランが幅広い入居者層を許容し、文化的多様性を包容する多文化共生コミュニティを導いていることを解明したことは、本論文の独創的な点である。本論文はさらに生活環境から大学の建築教育における留学生の学習環境に目を転じ、伝統建築・庭園を題材とした教育実践の方法論について分析し、伝統建築保存活用のあるべき方向性と建築教育の国際化の関係について論を展開している。米国及び日本で学ぶ学生の演習成果物の定性分析により、学生の出身地文化の相違や予備知識の有無と日本の伝統的デザインの理解傾向との関連を明らかにし、実地における空間体験が文化理解に最も大きな効果があることを解明している。最後に、異文化理解と環境教育のために伝統的文化財やヴァナキュラー建築を貴重な建築リソースとして保存活用する方法論を述べており、伝統建築の維持保存と環境教育を相互作用的に発展させていく可能性を見出している。

以上のように、本論文は豊富な国際経験と留学生教育の実践に基づいてまとめられたもので、研究の着眼点は独創的であり、きわめて社会的意義が高い論文である。本論文で明らかにされた研究成果は、留学生の教育現場と生活環境の改善に適用が十分に可能であり、今後さらなる実証研究を積み重ねて、異文化環境理解の可能性を追求していくことが期待される。

以上のように、本論文は教育現場の国際化を視野に入れた学習環境の改善と建築リソース活用の手法の新たな枠組みを提示していることから、独創的で大きな学術的価値を有するものと認められる。

本論文の内容は、主として以下の学術論文に報告されている。

- 1) 鈴木在乃、河合淳子、田中みさ子、鈴木克彦：留学生の住宅嗜好とその背景に関する研究 -

- 質問紙調査による分析-、日本建築学会住宅系研究報告会論文集第 6 号、pp.247-254 (2011)
- 2) 鈴木あるの：歴史的環境デザインの実用的応用－学生作品および感想文からの考察－、日本建築学会建築教育研究論文報告集第 12 号、pp.29-33 (2012)
  - 3) 鈴木あるの、河合淳子、田中みさ子、鈴木克彦：留学生の住宅嗜好とその背景に関する研究－中国人留学生の動向に着目して－、日本建築学会計画系論文集第 686 号掲載決定 (2013)
  - 4) SUZUKI, Arno : Cross Cultural Education in Architecture: Findings from Teaching International Students Traditional Japanese Architecture and Gardens, *The post conference book of the 2nd International Conference on Archi-Cultural Translations through the Silk Road (iaSU2012)*, Nishinomiya, Japan, 2012.7 (2013 年 3 月発行予定選抜論文集掲載決定)